※令和４年度以降入学生用

学校番号	３００４

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「数学Ｂ　Progress」（実教出版）						
副教材等	アクセスノート　数学Ｂ（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学は難しいものであると思われていますが、しっかりと勉強を積み重ねていけば理解できるものです。まずは授業をよく聞いて内容の理解に努めましょう。内容が理解できたと思ったら、問題を解いてみましょう。問題を解くために頭を働かせることで数学の理解が深まります。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書き残しておきましょう。また、各自で答え合わせをしましょう。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知る大切なものです。しっかりとした心構えで学習を続けてください。

２　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

観点の趣旨	数学 B における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察できる。 また、日常の事象や社会の事象などを数学化し、問題解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりできる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしている。 また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	数列とその和	1. 数列 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	a: 等差数列、等比数列の一般項や和の公式の意味を理解し、それらの公式を目的に応じて活用することができる。 b: 数列の特徴を理解し、一般項やその和を求める公式を適切に活用し、表現することができる。 c: 等差数列や等比数列の一般項やその和の公式を、適切に用いようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出物	提出物 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	いろいろな数列	1. 数列の和とΣ記号 2. 階差数列	a: 記号Σを用いて表された数列の和を求めることができる。階差数列の考え方によってもとの数列の一般項を求めることができる。 b: 記号Σの性質を用いて数列の和を表現できる。 階差数列の考え方を理解し、適切に活用することができる。 c: 階差数列などのいろいろな数列について、その考え方を理解しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出物	提出物 振り返りシート
2	漸化式と数学的帰納法	1. 漸化式 2. 数学的帰納法	a: 漸化式の考え方を理解し、一般項などを求めることができる。数学的帰納法などを用いた証明を論理的に書き表すことができる。 b: 漸化式の再帰的な考え方のよさを理解し、一般項を求める過程が理解できる。数学的帰納法の演繹的な考え方と無限に対する証明の論理性が理解できる。 c: 漸化式の再帰的な考え方を理解しようとし、活用できるようにする態度を示す。数学的帰納法の考え方と証明の書き方を意欲的に習得しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出物	提出物 振り返りシート
3	数学と社会生活	1. 金融と数学 2. データの解析 3. 身近な事象の数学化と課題解決	a: 単利法や複利法に関する計算ができる。移動平均や回帰直線の求め方がわかる。 b: 複利法における元利合計の計算過程が理解できる。移動平均や回帰直線による分析の考え方が理解できる。身近な事象を数学的に表現できる。 c: さまざまな確率の計算を論理的に理解しようとする。長期的に変動のあるデータを積極的に集め、解析しようとする。身近な事象を数学的に解決しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出物	提出物 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度